

事業報告書

1 支援団体名	團伊玖磨さんの音楽を楽しむ会（後援・久留米市/福岡文化連盟/九州交響楽団）								
2 事業名称	『筑後川』歌い継ぐ魂 パネル展&ギャラリー・トーク								
3 実施日時	平成 25 年 2 月 12 日～17 日（2 月 12 日はパネル設営）								
4 実施場所	石橋文化会館 1 F 市民ギャラリー「みゅーず」（久留米市野中町 1015）								
5 事業目的、内容及びその効果	（事業実施状況・内容）＊できるだけ詳細に パネル展 平成 25 年 2 月 13 日(水)～17 日(日)毎日 10：00～17：00 開催。 全国から 400 名～700 名の愛唱者が筑後川流域に集まり、平成 14 年から毎年開かれてきた流域 4 県を巡る「筑後川流域コンサート」を 100 点のパネル資料で紹介。熊本県小国町から福岡県柳川市へと、町々で歌い継がれ、流域の連携や地域づくりへ寄与している状況が来場者を魅了した。 ギャラリー・トーク 2 月 16 日(土)18:00～20:00 現田茂夫(神奈川フィル名誉指揮者)今村晃(九響音楽主幹)中野政則(團伊玖磨さんの音楽を楽しむ会代表)が『筑後川』作品をはじめとする「九州作品 50 曲」について「九州と團伊玖磨」をテーマに鼎談。“流域文化”を支える人々の交流の場ともなり、次世代へ継ぐ役割を果たした。 （事業実施効果） 平成 14 年から開かれてきた合唱組曲『筑後川』（丸山豊・作詞 團伊玖磨・作曲）の筑後川流域連続演奏会。10 年にわたる姿、歌い継ぐ町々の人々の姿が描かれ多数の来場者に共感を与え、NHK テレビニュースをはじめ各種メディアで紹介された。『筑後川』を通して「九州」を大きくアピールするものともなった。 パネル展会場での鼎談は、筑後川のほとりで誕生した合唱組曲『筑後川』が 40 年を経て我が国で一、二を争う名曲に育った背景をわかり易く解説し、更に歌い継ぐことの大切さを訴えた。筑後川流域周辺のファンが毎年実行委員会を組織し、会を盛り上げているエネルギーに更に力を与え、将来への付加価値を増大した。								
6 参加内訳	<table> <tr> <td>総人数</td><td>1600 名</td></tr> <tr> <td>（１）主催者参加</td><td>1600 名</td></tr> <tr> <td>（２）日本人参加（（１）を除く）</td><td>1600 名</td></tr> <tr> <td>（３）外国人参加（（１）を除く）</td><td>名</td></tr> </table>	総人数	1600 名	（１）主催者参加	1600 名	（２）日本人参加（（１）を除く）	1600 名	（３）外国人参加（（１）を除く）	名
総人数	1600 名								
（１）主催者参加	1600 名								
（２）日本人参加（（１）を除く）	1600 名								
（３）外国人参加（（１）を除く）	名								
7 今後の方針	全国で親しまれている『筑後川』は筑後川流域の音楽文化の中心となった感がある。これからも九州はもとより更に全国へ向けた発信を続け、筑後川流域の町々の連携と豊かな地域の環境向上に努めていきたい。								

☒ 支援金対象事業に係る資料、写真など

状況写真（会場の石橋文化会館玄関）



状況写真（パネル展会場）



状況写真（パネル展会場）



状況写真（同左）



状況写真（パネ展開催を報ずる NHKテレビ 2月16日午前7時のニュース） 状況写真（同左）



状況写真（2月16日 鼎談「團伊玖磨と九州」）



状況写真（パネ展開催を報ずる NHKテレビ 2月

